

令和3年度【数学】授業改善推進プラン

文京区立第八中学校

	課題の分析	授業改善の視点	成果と課題
1 年 生	<p>①全体 60～70%の生徒はよく授業を吸収し学力を得ているが、生徒により以下の面に課題が見られる。また計算力や読解力などは家庭学習の能率に影響を及ぼすが、授業への取り組み方以上に個人差がある。</p> <p>②意識面 授業で必要な一定の集中力、持続力が不足する場面がある。理解や蓄積が得づらく、考える材料が乏しいことで、あきらめも早い傾向がある。</p> <p>③学習手段 具体的な家庭学習の方法が習慣化されていない。基本的な練習パターンが確立するまでは、定期考査への準備など広範囲にわたる取り組みも難しい。</p>	<p>①全体 ・身近で興味や関心を持ちやすい教材の選択を心がける。授業内容と既習内容との関連を常に触れて全体像の構築に生かす。 ・試験問題の見直しなどで、学習内容を反復し、多面的に捉える機会を設ける。</p> <p>②学習活動に対する意識を変える。特に、生活習慣を見直して学習活動に充てる時間を確保し、習慣として確立させる。</p> <p>③授業を集中して聞き、要点を的確に記録させる。授業内容、教科書の基礎的な内容を土台にした問題練習の実践を徹底し、問題解決を通して理解するサイクルを確立させる。</p>	
2 年 生	<p>①集中して学習する習慣が身につけていない生徒、丁寧に文字や式が書けない生徒が数名いる。一方、数学的思考力や数学的技能が高い生徒もいるので、どの生徒の学力も伸ばす授業の工夫が課題である。</p>	<p>①習熟度別少人数授業を実施し、個に応じた指導をする。標準コースでは既習事項も含めて反復練習をたくさん取り組ませ、達成感を味わえるようにする。発展コースでは教科書の内容に加えて、思考力を鍛える問題を数多く取り扱う。</p>	
3 年 生	<p>①授業へ意欲的に取り組んでいるが、学習内容の定着度は個人差が大きい。</p>	<p>①習熟度別少人数授業を実施し、個に応じた指導をする。標準コースでは既習事項も含めて反復練習をたくさん取り組ませ、知識・技能の向上を図る。その際時間などの目標も設定し取り組ませる。発展的なコースでは入試問題などの思考力を鍛える問題を数多く取り扱う。答えを導くまでの過程や考え方を話し合い、発表させ表現力の向上も図る。</p>	